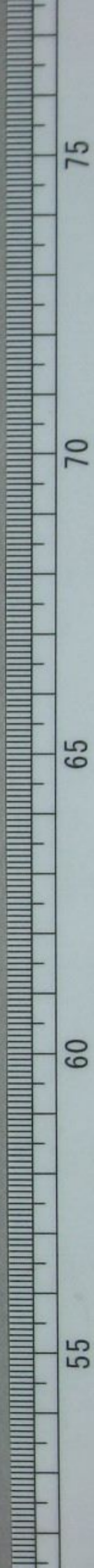




新刊
海防
要略

三

多 9
933
1



門ヲ刻
第 933
卷 1

大塚

又春夏秋冬ハ天乃成也。山野海岸ハ
 これ地の載スル処あり。人ニ中ニ生シ備ヘ
 テ七情あり。これ子感シテるを本スルもの
 量多事少あり。定ニ起テ始動靜業
 墨須臾も離レ入ラズ。室を以テ膝を容ル
 小書院を以テ。七情すて子條情を以テ眺
 望を好ビ。眺望乃條情ハこれ雪月を色
 と花を著ル。始メ風流勢を并ニ盡シ終メ子

山

山

山

千里乃菌村^{エンソシガンゼン}はあし梅^{ウメ}と路^{ミチ}より家^{トホ}よりして
 眺^{ノゾク}をを求^{モト}む乃^ナ孫^{セツ}業^{ケイ}し。そのと雪月集
 とみづく見^ミんもの心^{ココロ}清^{シヤウ}淨^{ジュウ}みして釋^エ慈^{アウ}は
 学^{マナブ}も乃^ナ於^オ百^{ヒャク}病^{ビョウ}を去^{サツ}て智^チ福^{フク}をのつら
 まらん。古今^{コキン}より此^{ココ}に至^シ家^{ホウ}と共^{トモ}書を子
 あらくう色^{シキ}。于^オ時^{トキ}元^{ゲン}禄^{ロク}を壬申^{ニシチ}歳^{サイ}を陽^{ヤウ}下^カ旬
 加^カ陽^{ヤウ}之^ノ散^{サン}人^{ジン}遠^{エン}在^{ゼイ}え弟^{テイ}移^イア序^{シヨ}



雪月集上

○表具乃事

一 輪^{リン}補^ホ繪^エ 燈^{トウ}補^ホ繪^エ 表^{ヒョウ}補^ホ繪^エ 已上^{イジョウ}以^{ヨリ}圖^ズ可^カ知^チ

右乃三式と法とに。外より唐表具と稱するの略

○三幅一對乃事

一 德^{トク}祐^{ユウ}ハ先^マ中^{チュウ}をを永^{トシ}まき結^{ムス}をを記^キ下^カより玉^{タマ}とく
 風^{フウ}帯^{タイ}ををまき一^{ヒト}がまきさけけ^ケ妙^{テウ}を指^{サシ}けふ^ケ不^フ子^シ校^{コウ}
 指^{サシ}わり^{ワリ}座^ザへ入^イ釘^{クワ}よかけ^ケ軸^{チク}ををさうく^クと^ト留^ルじ^シを
 を入^イ柄^ヘ右^{ミダ}左^{サダ}れ^レことをおれごとくかけ^ケ次^{ツギ}より左^{サダ}を^ヲけ^ケ流^{リウ}
 ます^スと^ト結^{ムス}ハ三^{サン}幅^{フク}も^モよ^ヨ下^カれ^レこ^コより^{ヨリ}也^{ナリ}



一 ともし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 まるし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 乃方をもひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 ちれこいあふひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 づしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 白くわあをかこれこいあふひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 めくかれし

○二幅一對乃事

一 懸極の上座北のこよりをひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 およしこいあふひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 一 ともし極の勝手よりわし極のこよりをひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄

かしふれこいあふひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 中北のこいあふひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 結北のこいあふひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄

○四幅一對乃事

一 懸極の中乃二幅乃内容位より初め極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 一 ともし極の勝手よりわし極のこよりをひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 一 ともし極の勝手よりわし極のこよりをひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 一 ともし極の勝手よりわし極のこよりをひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 一 ともし極の勝手よりわし極のこよりをひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 一 ともし極の勝手よりわし極のこよりをひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 一 ともし極の勝手よりわし極のこよりをひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄
 一 ともし極の勝手よりわし極のこよりをひしませし極の右北のこよりをひしませし極の右北方(行^{カタヨセ}寄

おのづからさかむ圖よしく可なり

○大横物のけむりし乃事

一 かけ板の巻端をときしひろげ風箏を垂し、け押
よえと舟軸をもち床へ入坐申をけ上座の方を
け又傍をれこをかけ坐申の端をひろしあ方
乃釘をそお合すこと

一 せじ板の先坐申をけ傍をれこをひろし上座
の方をせじ板の坐申をよしこ或は三のけ押物
一 板がくももけひろし常れ一やく物因る
こめも申る物も同し番乃ごとし

○巻物端のけ乃事

一 圖乃ごとくあゝまをさかむしはふまをぬひあゝまを
端をひろかりがうらまをく押通しわあ乃こを家
およあそ一板を申へりおとこおとて可なり

一 亭よりあつてま物をさるハ件の一板を端を
て引せむとくまを巻端乃らりよ入下よ坐
内をえ流す所ハ端をくるとまをすすしあゝまの如く
まくと解しそをさるあゝまハ大梁上座の役あり又
貴人言位乃時ハ押指あゝまを

○四幅一對本式乃事

一 總物大梁四季乃物ハ立花二瓶大卓よ香炉あり
表目卓ありとくしあゝまをす

○三幅一對本式荘の事

一立花二瓶卓香炉卓ハ床壁と床縁との中間
に垂へし御成ふとの時荘しめを可免

○三幅一對本式荘の事

一大床ありてハ居ぬ若し立花二瓶む花巻し并し
大横物同おの圖可免

○二幅一對砂物の事

一大紫花ハ何節乃物より祝儀より何とて去姫を此
物と砂物ハ略し徳物并床の格よりよるべし

○二幅一對盆山乃事

一盆山四季よあひしるる石乃京よりり砂の入り

盆よりり石乃居スエ後ありり入るはる文何あり

盆山殿御奇

盆石乃茶よりり此よりり後よりり海もさるぬ

盆山之十徳

白居易

益精延愛顔

助眼除眩眠

澄心無穢惡

草木知昏秋

不尋見海浦

不遠有眺望

不移入岩窟

迎夏有納涼

延年無朽損

愛是无惡業

○上段床一幅物卓香爐乃事

一卓ハ皆朱リ又ハ熱くらめりし卓此柄子瓦合と名も
香爐乃火りけん子をわひし可加浪盤と名加丹厚
さあち重五分四方の本ハ横より五へし浪盤の下は穴
三川に引りあらしりし火乃きえんこと

○上段床横物卓香爐乃事

一卓ハ中央香爐又ハ合卓下乃花口是此外ハ坐る板
すへし花ハ小まへあふより横物の時ハ大くはひ長き
卓瓦合と名よきこ板墨跡よ物花田ハ山圖香爐
乃けりく大きあらしり半卓乃むきくを引あし
置物乃時も卓むきく香爐と名を瓦合と名し

一細け物上段乃床も子ハ半床或ハ座敷乃
壁ももけてくくわじ板がくもりあらしり
唐表具として上下乃きれらわしり一文字ハ縁
風等細子ハ六引畦あらしり調りきもの

○筥莊乃事

一豆居客居とも山圖又袋ハ入る花も半もわりの
床乃時廿一月し板床ハ向と縁との事

○琵琶莊乃事

一也圖等とも山圖撥を添並付も格撥長も又ハ琴
拵ハ何ハ凡添と名三味線拵もハ琉球三味線拵
なり日本ハやまも事し蛇皮ももわらしり

三色あり梅ハありし

○口掩乃壺莊花

一壺乃京ありよし掩の弦ひあわかしむあよあし床
つらなりを此目女一めしわこ入の蒲團あし

○網總壺かざり花

一網ハ紅糸より花あふと月一やんあし網口
乃弦ひよ七々々とと籜 楊 栴檀 えんやう 上輪
かこみ 射付 見物乃好ハとましつるやうしあし弦を
弦こぬつる

○文臺莊乃事

一文臺庄不ぬ目女一め上よをまき杖系大響檀紙

小響糸平折の上よ祝華又紙硯ありし書物まじり
あし別よ文臺庄花をあをえりし

○釣香爐乃事

一床此かゝ垣高申よ折釘を名肉うし香爐此より
乃此環をひ川からし向ひよ徳物の事

○物花生花事

一夫亦可もさしり一箇乃こを書看よりし二箇乃
こを孫子あしし花とあふあしけつ入
舟よまじりけ帆乃わひしをまきを舟又舟此あし
こく心よりあしをえりし

○怨む生花事

一 大花籠へ花も一入たきよまきこむよしむね北棚あり
そしりあり又喜捨まうけ花入かろ事喜捨ハ
丸乃園うそたふへし

○書院康莊の事

一 折白ひ右乃方より見屏視墨筆架左乃方より巻
物軸並の字の園少く可き見屏並不納燈窓花縁
と角との間よりみ窓北より乃中よりみよりわても同
筆すきしぬ園又白北角へせりも並文法書物乃
より並又右より紙硯並左より袖並より物二をよ紙
ぬ園下よりも並と上板系よりみ窓ありみ小窓上は視
ぬ窓又物燈より乃中よりみ窓と並心口掩りて人
右に料紙並内より硯並入並きたより重書物或ハ唐
本映入花より書物よりハ書なり

○違棚飾の事

一 香燈食鉢し内より菓子入ありより上より昆布中より物
下より菓子し又も可し又ハ西樓棚より下より並む
口掩りむそん並わたり葉茶臺より並むのせ
香籠並蒸の湯戸みふ口より並むとよし又上より棚よりハ
唐物乃下判石帯一方より茶器并中出御床を合座
通棚中棚向棚卓棚合木棚大脇棚之羽子棚
佛棚押物棚袋棚千鳥棚具置棚重棚置棚
角棚等各並合眞乃園よりみこむへし

右を外柱からうのりなり簡板を多くハあつてあり
よ門くそく座履をいふくは寸方長さ二尺二寸
くろぬり湖粉書こ上だりより羽帯をかかす床脇
の横子し圖みくろくべし

一床の在る事四幅一對二紙卓番籠をすべてよを
密居とし下を主居とし密居二幅乃其申の座し
座をさぬき二つこれ總相見の座よりハ六尺なりとべし
立花をえん三尺なりと居をくろぬり座をえん其申の座を
番籠卓をえん三尺なりと居をくろぬり座をえん又
三尺なりと居をえん三尺なりと居をくろぬり座をえん
三幅一對二幅對大横物を並山砂物尺板各丈の例と

ゆく考へてべし

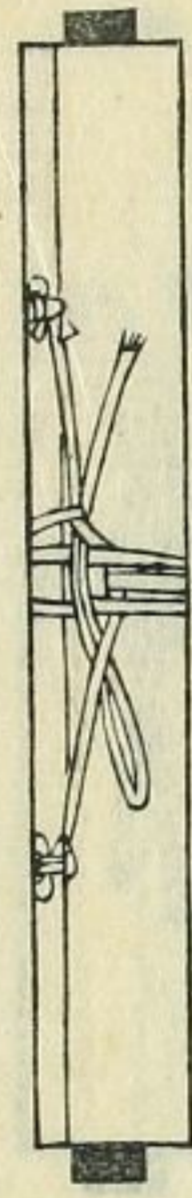
一上段の床一幅物卓番籠尺板座を多くと書院へ
入上段よりなり先は什物を尺番籠卓をえん墨物ハ
下みくろくとえん番籠尺板をくろぬり座をくろぬり
板居より書院床へひくは右乃尺板乃あり方なり
尺板九へよりを物をえん板をふれありゆたよ上より座を
よえぬりしとく座を多く横物中央に卓番籠板
尺板も右よりくろぬり座をくろぬり座をくろぬり座を
花をえんくろぬり座をくろぬり座をくろぬり座をくろぬり
よ約四七八尺もぬりよりてとくくハとくくハとくくハ
及び尺板ハ板ハとくべし



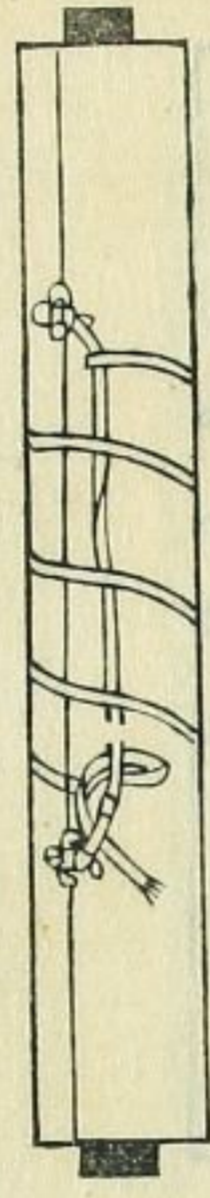
冬



秋

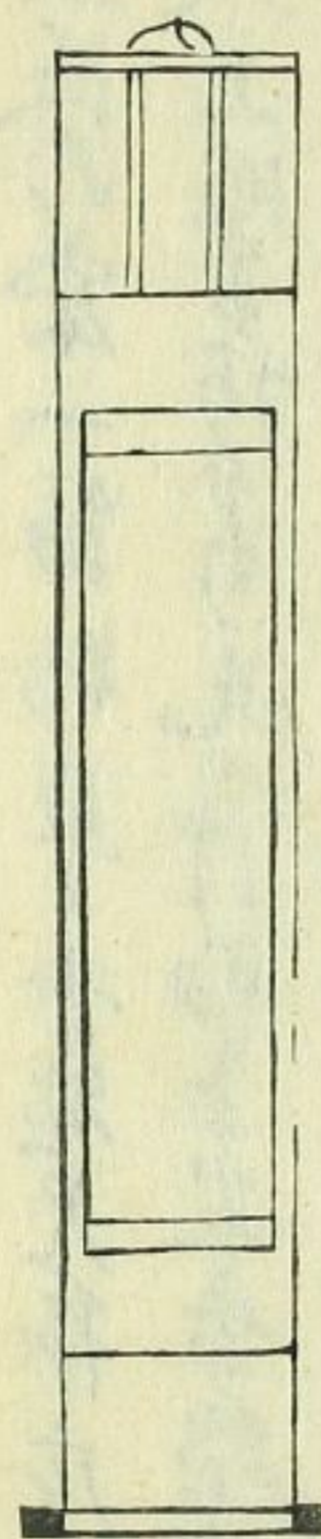


夏

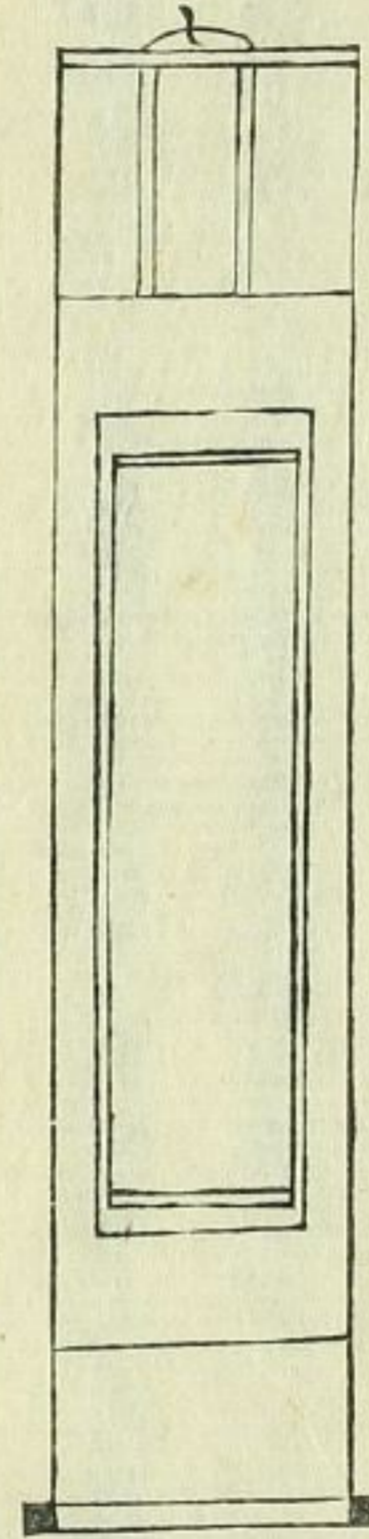


春

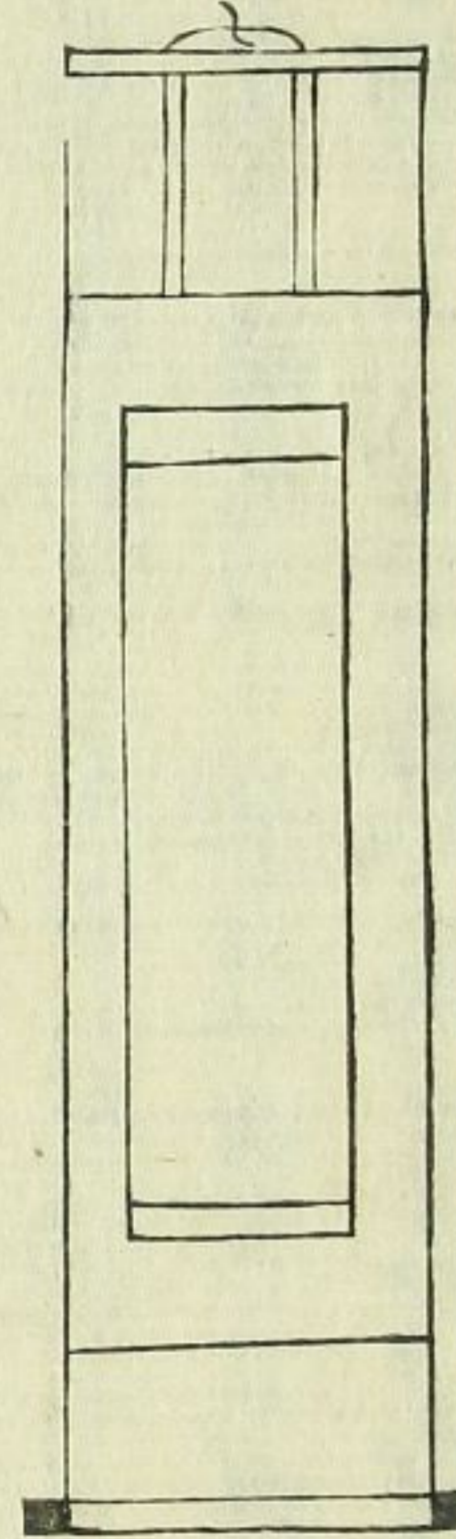
四幅對卷の入り紙中
茶まき子紙之巻



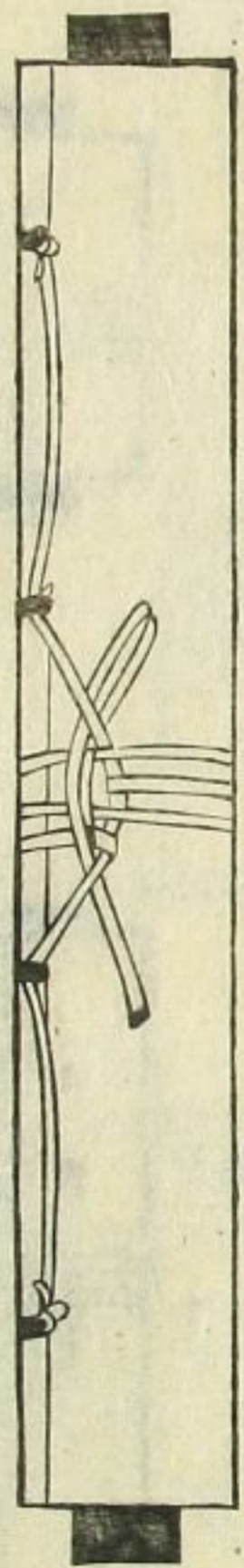
表ヘ補ホ繪エ



輪リ補ホ繪エ



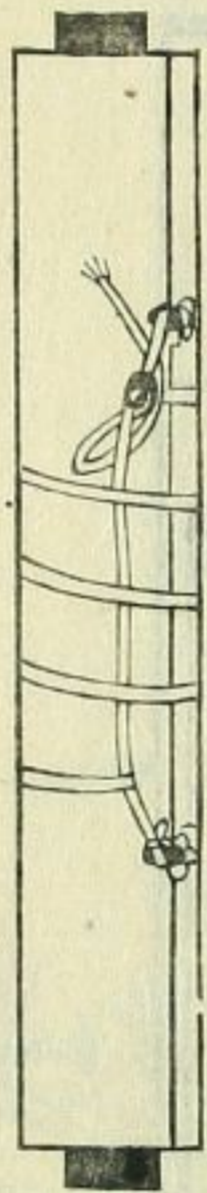
墜タ補ホ繪エ



大横物まきし結をう乃必



客居 左



主居 右

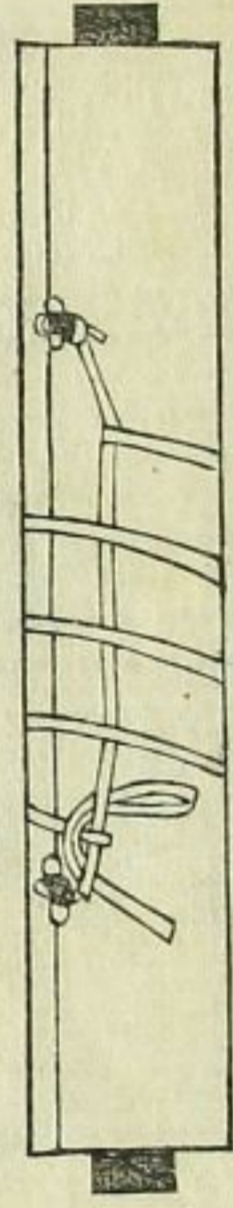
二幅対装よ入次弟並あき結



左



中尊



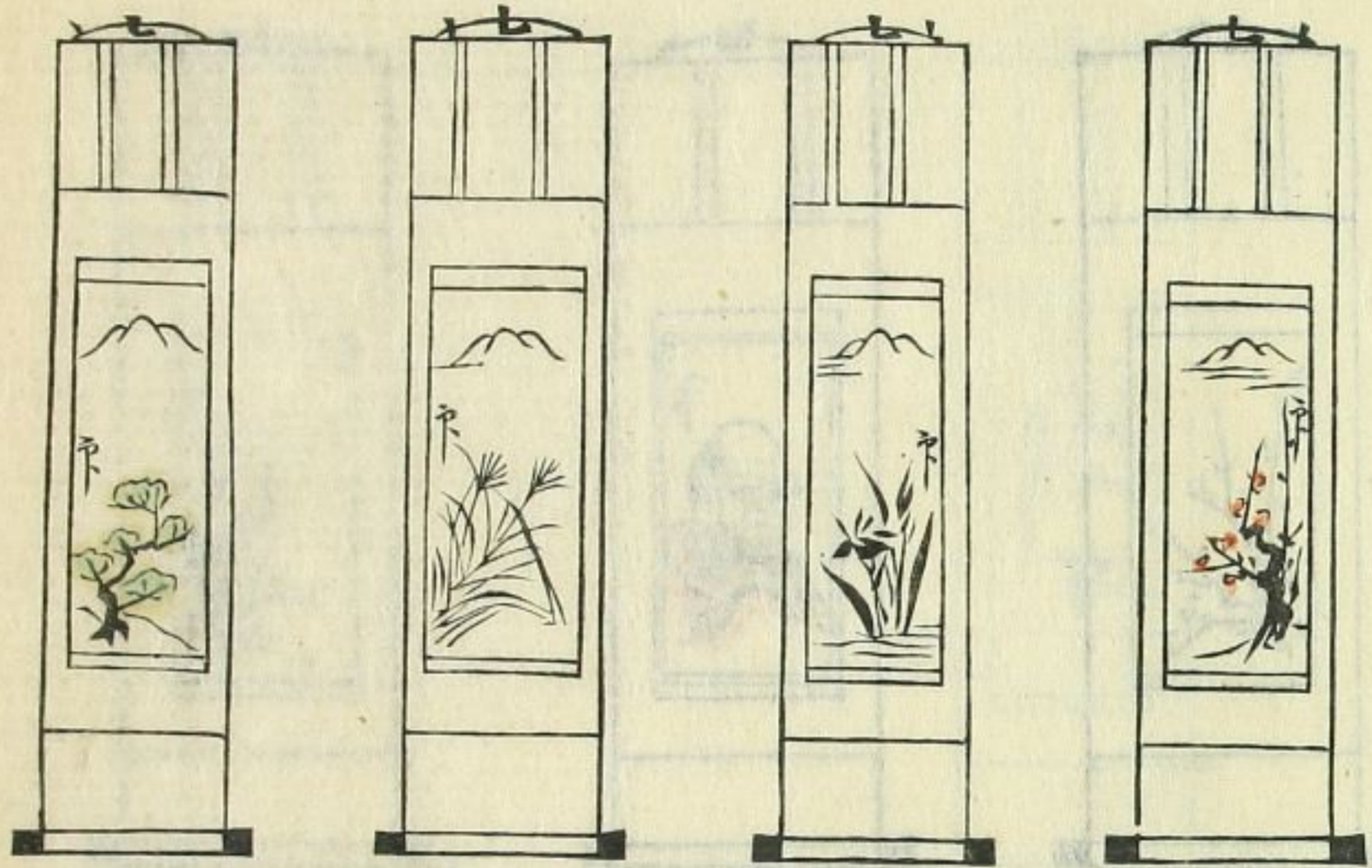
右

三幅対装よ入次弟並あき結乃必

新編

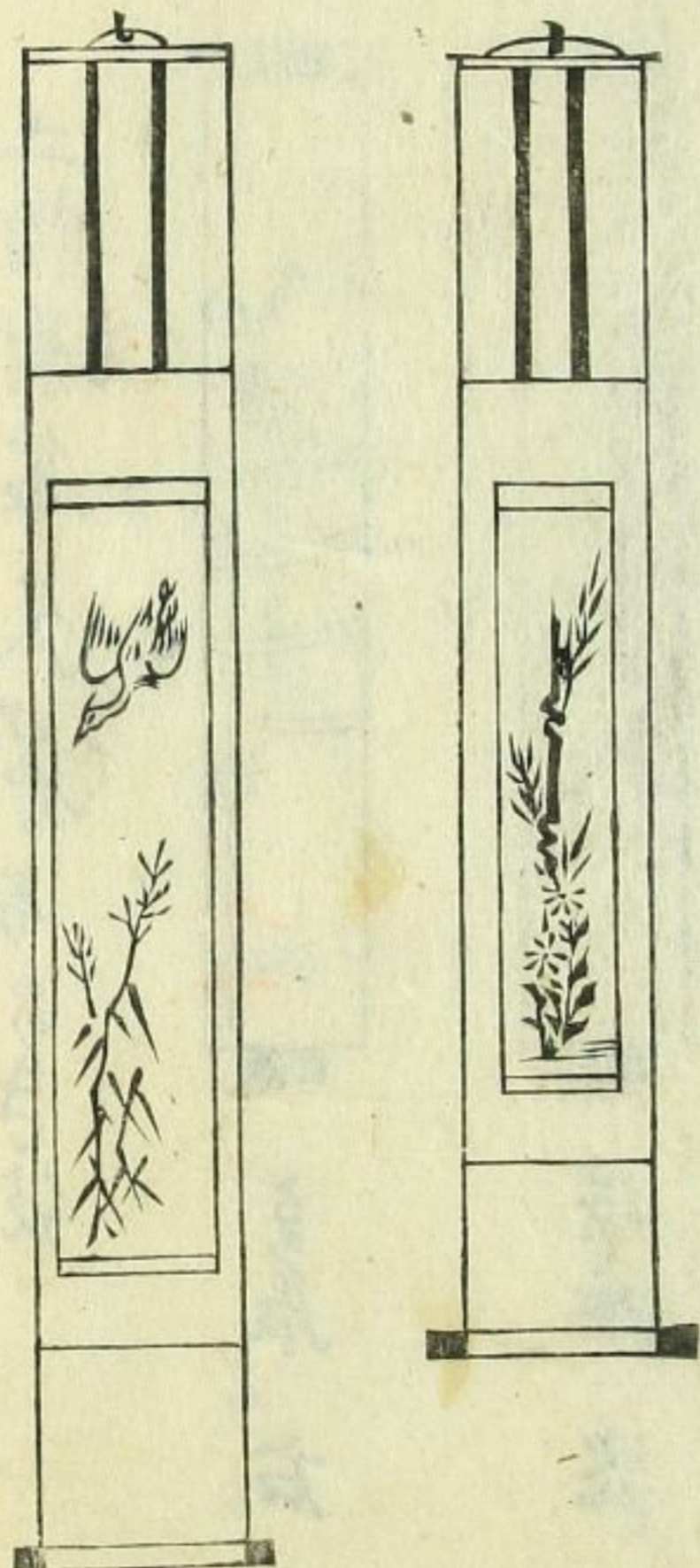
五

三



花臺

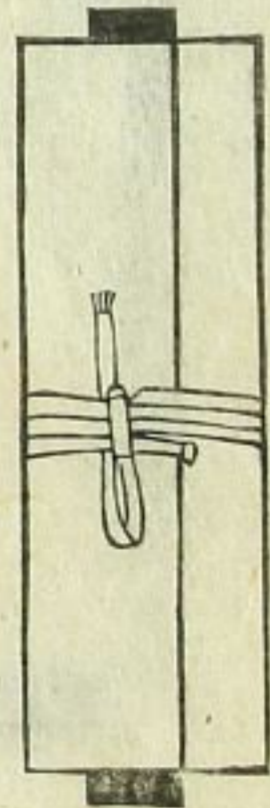
花臺



かたかけも乃茶



栢隠を結茶

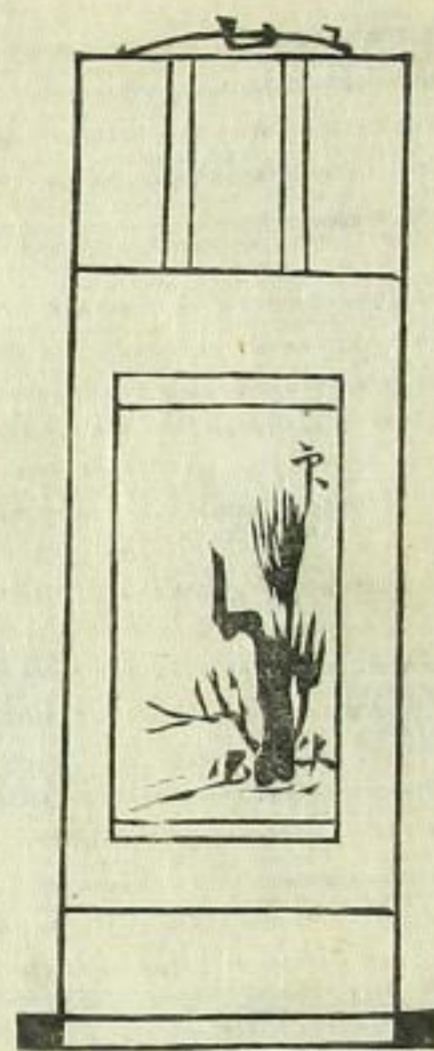
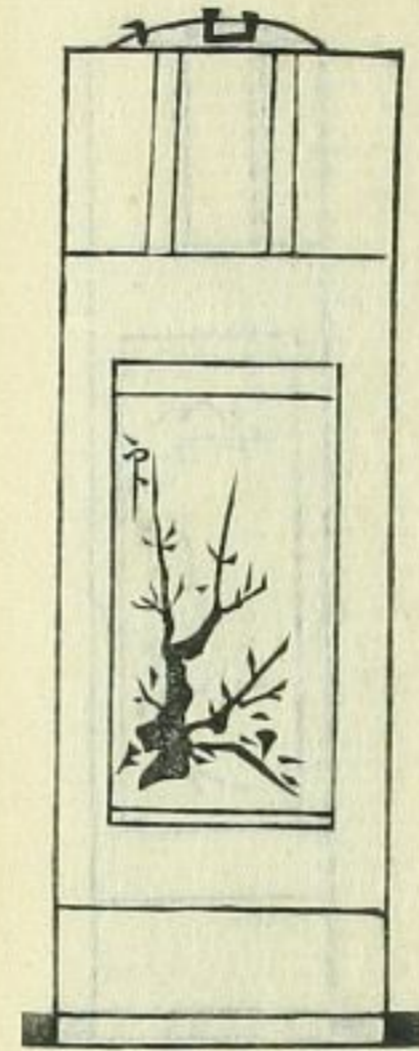
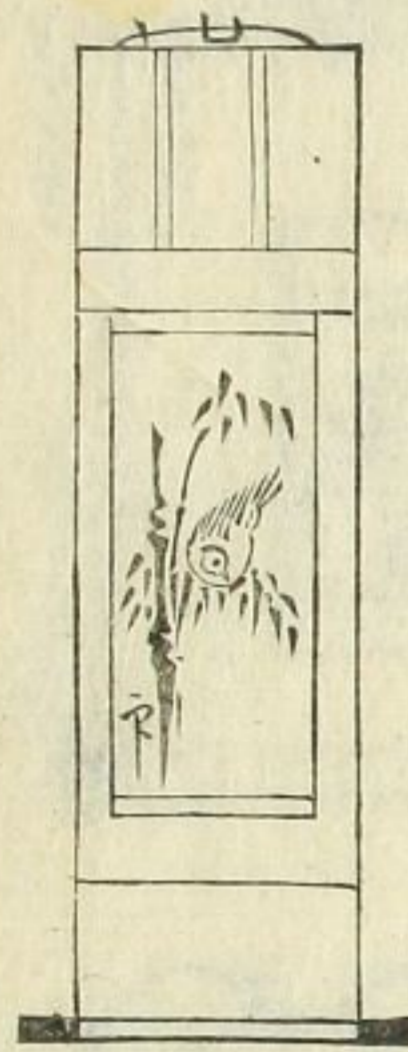


軸乃物まき結乃茶

字月

上

茶



臺花



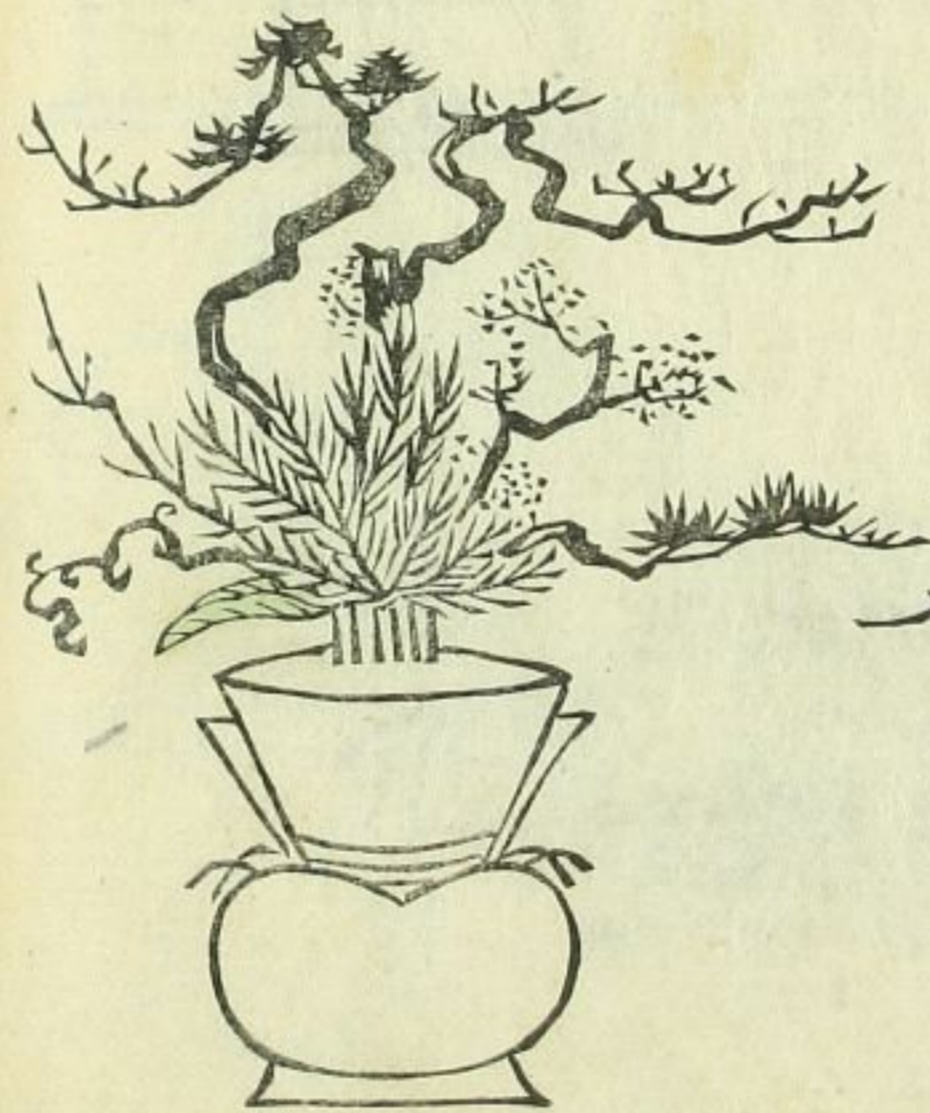
臺花



花臺



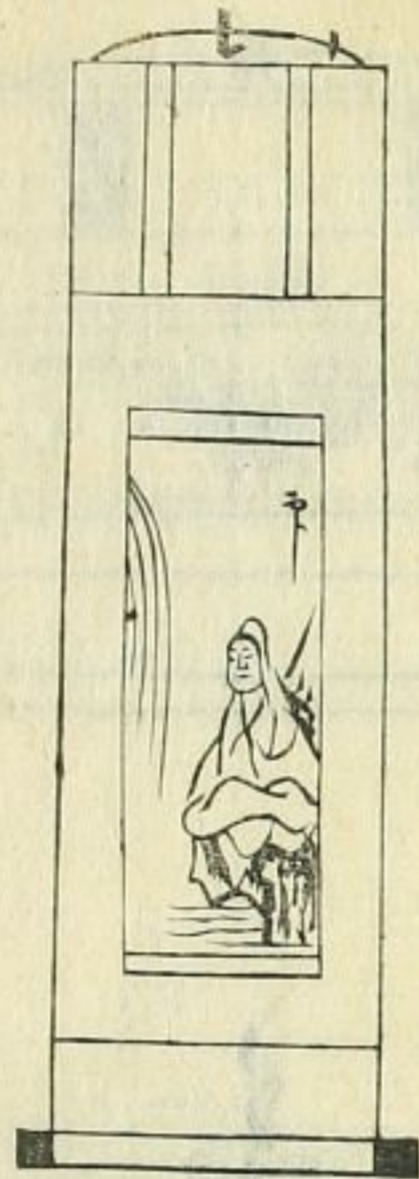
花臺



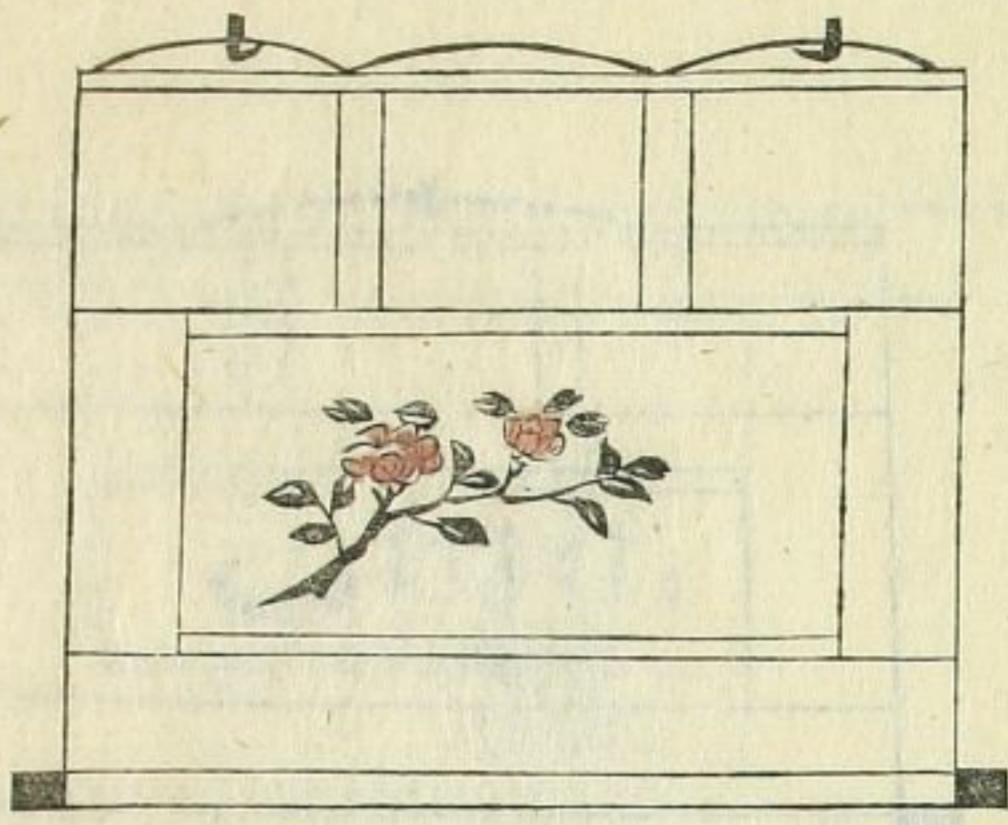
花臺



花臺

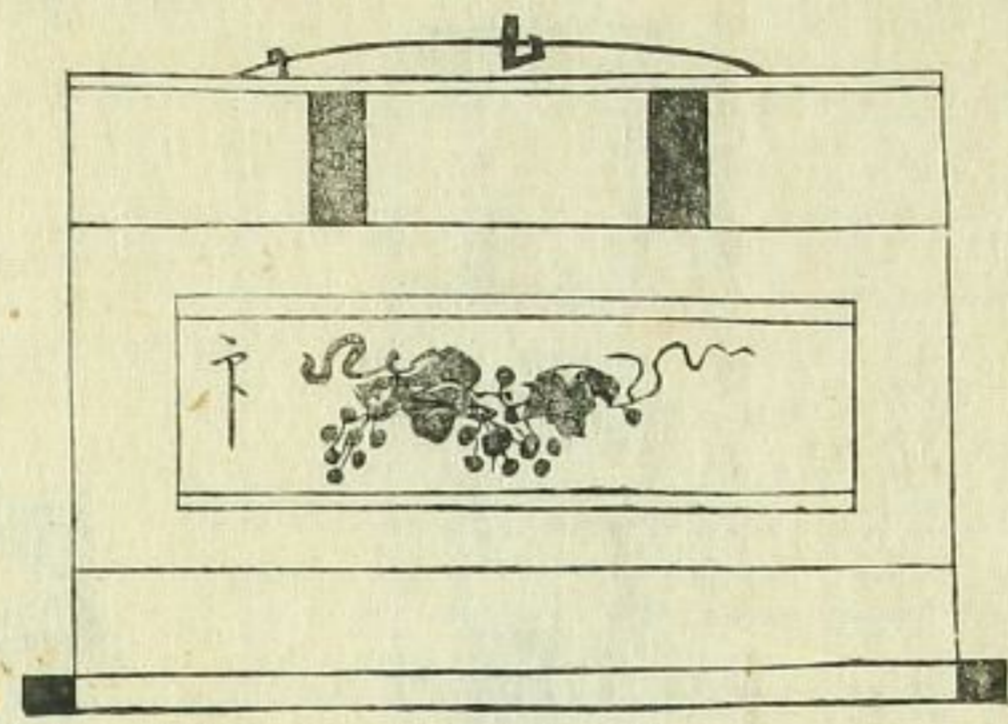


上



下

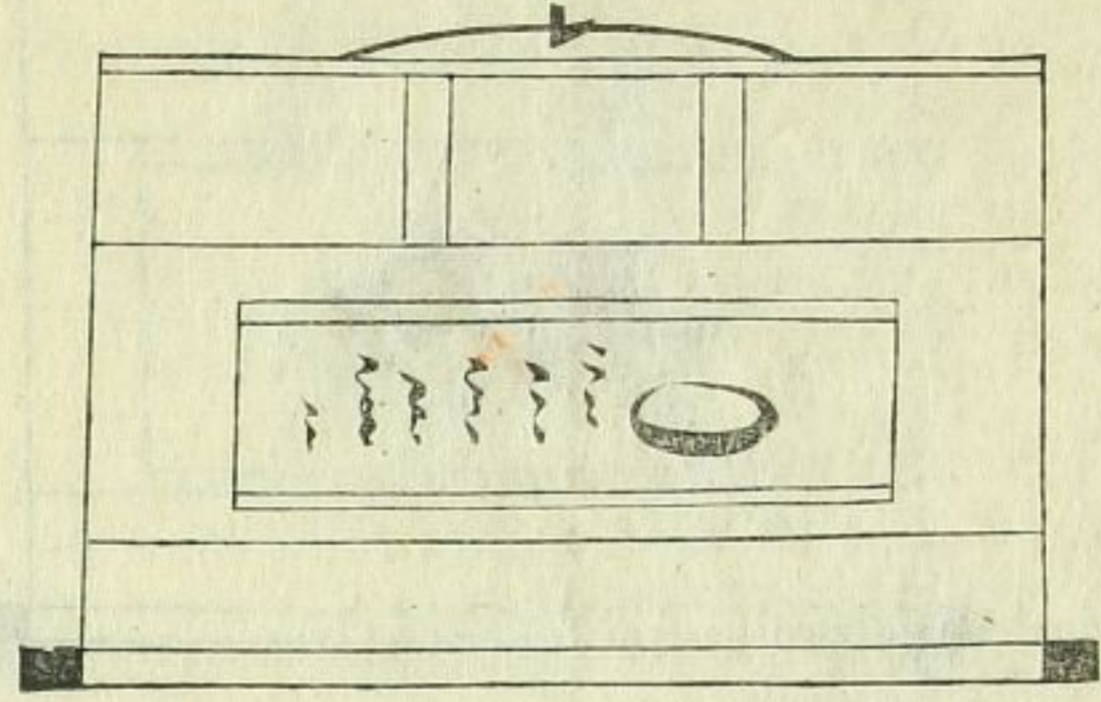
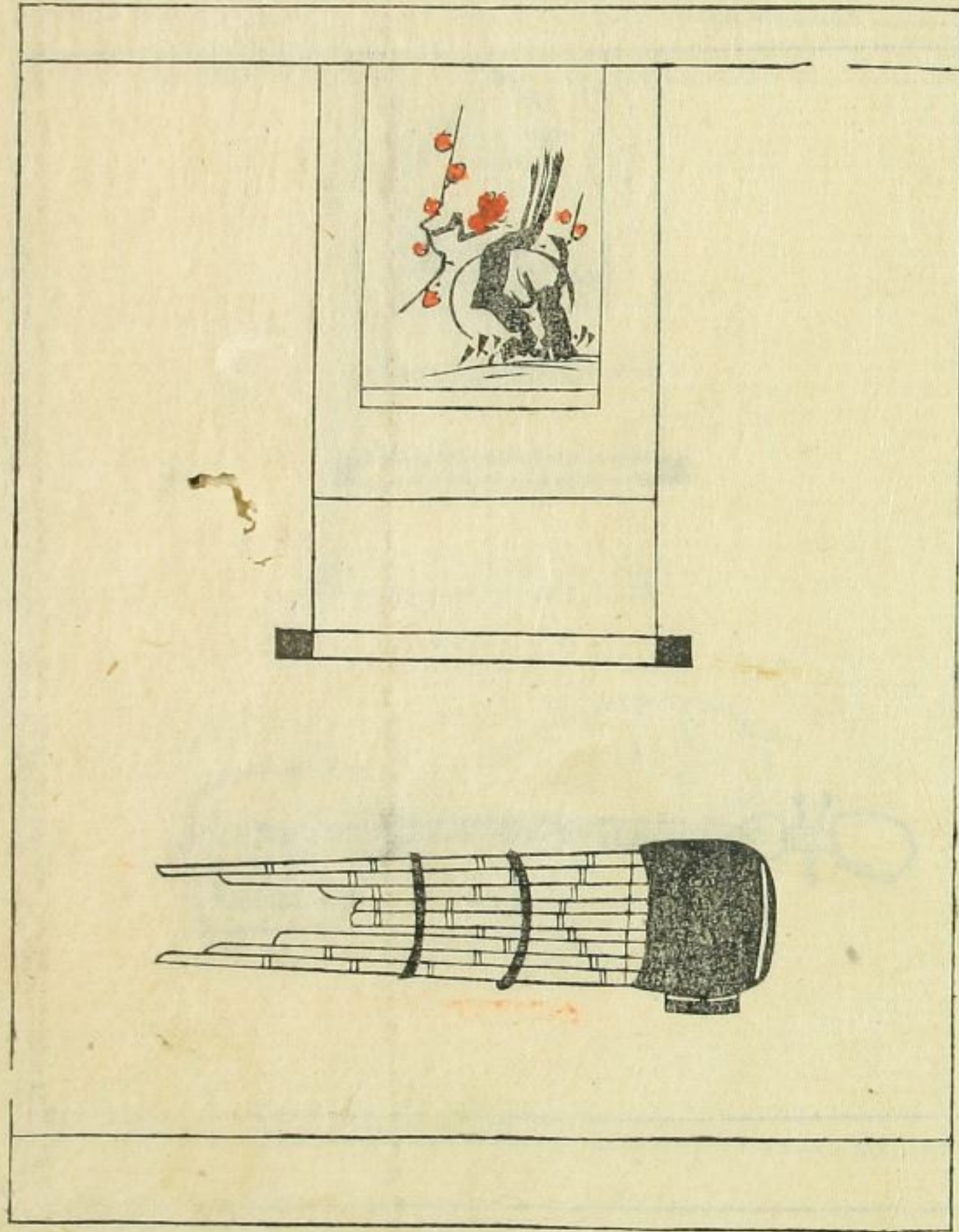
上

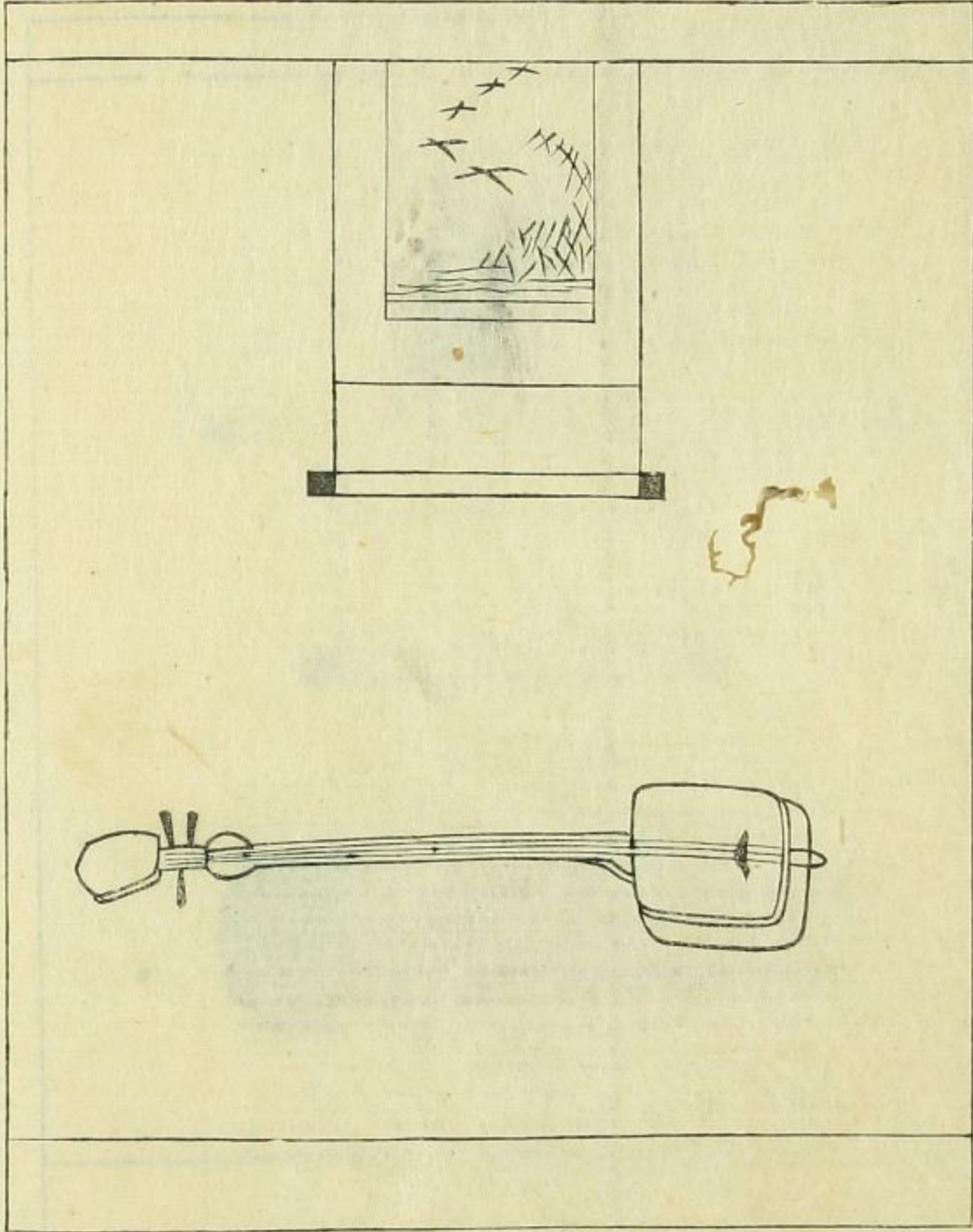
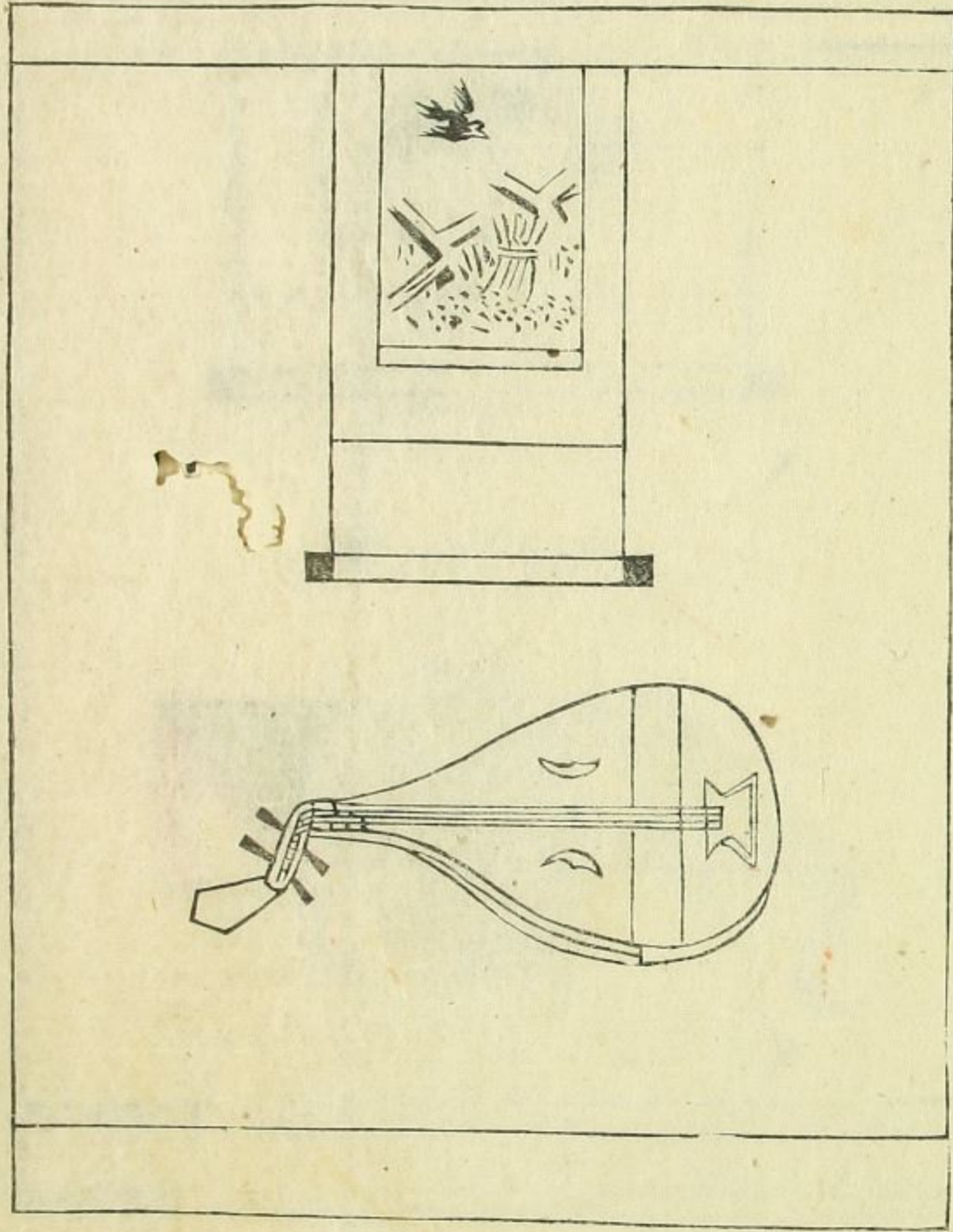


下



上





琴

圖

琴

琴

圖

琴

山

山

山



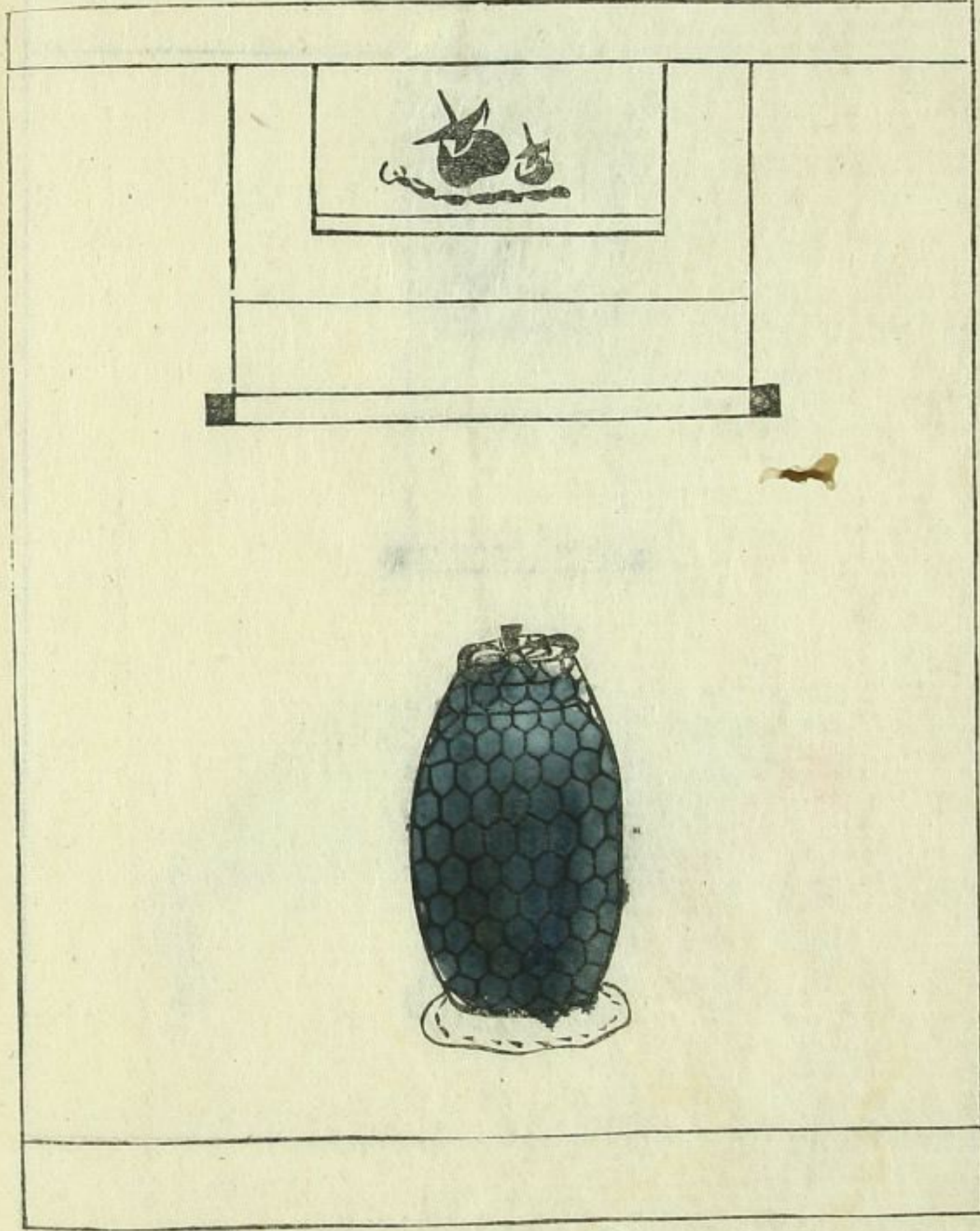
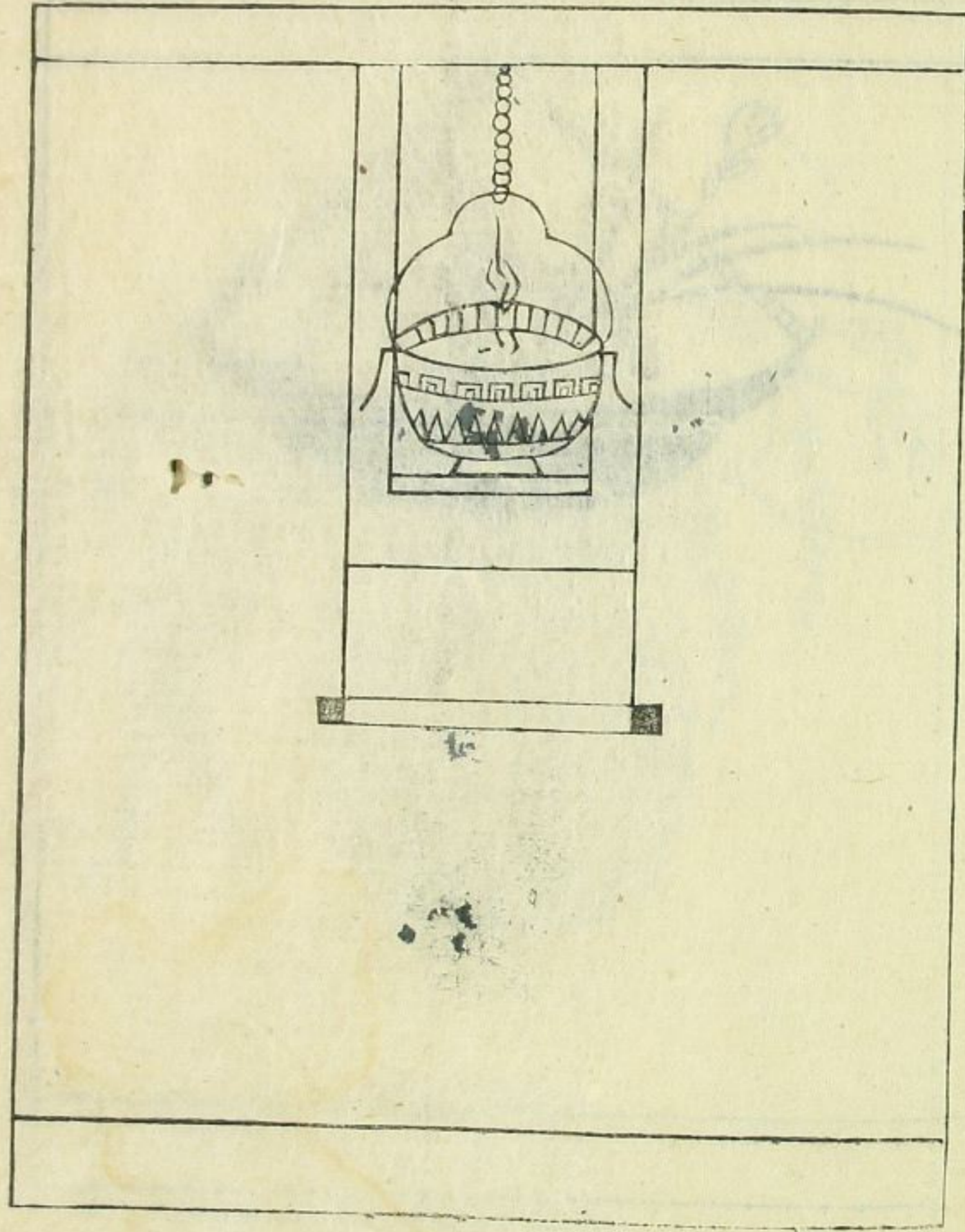
山

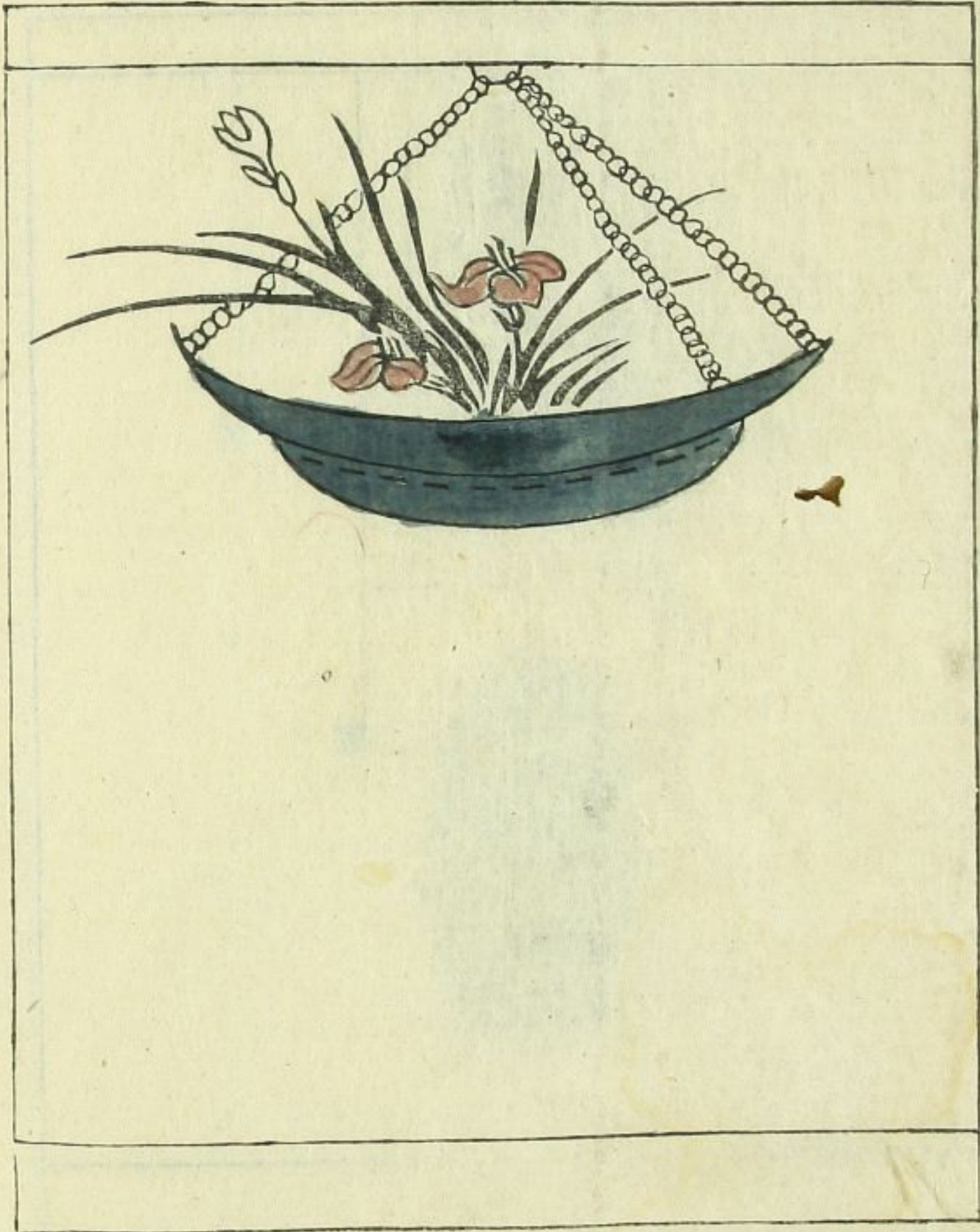
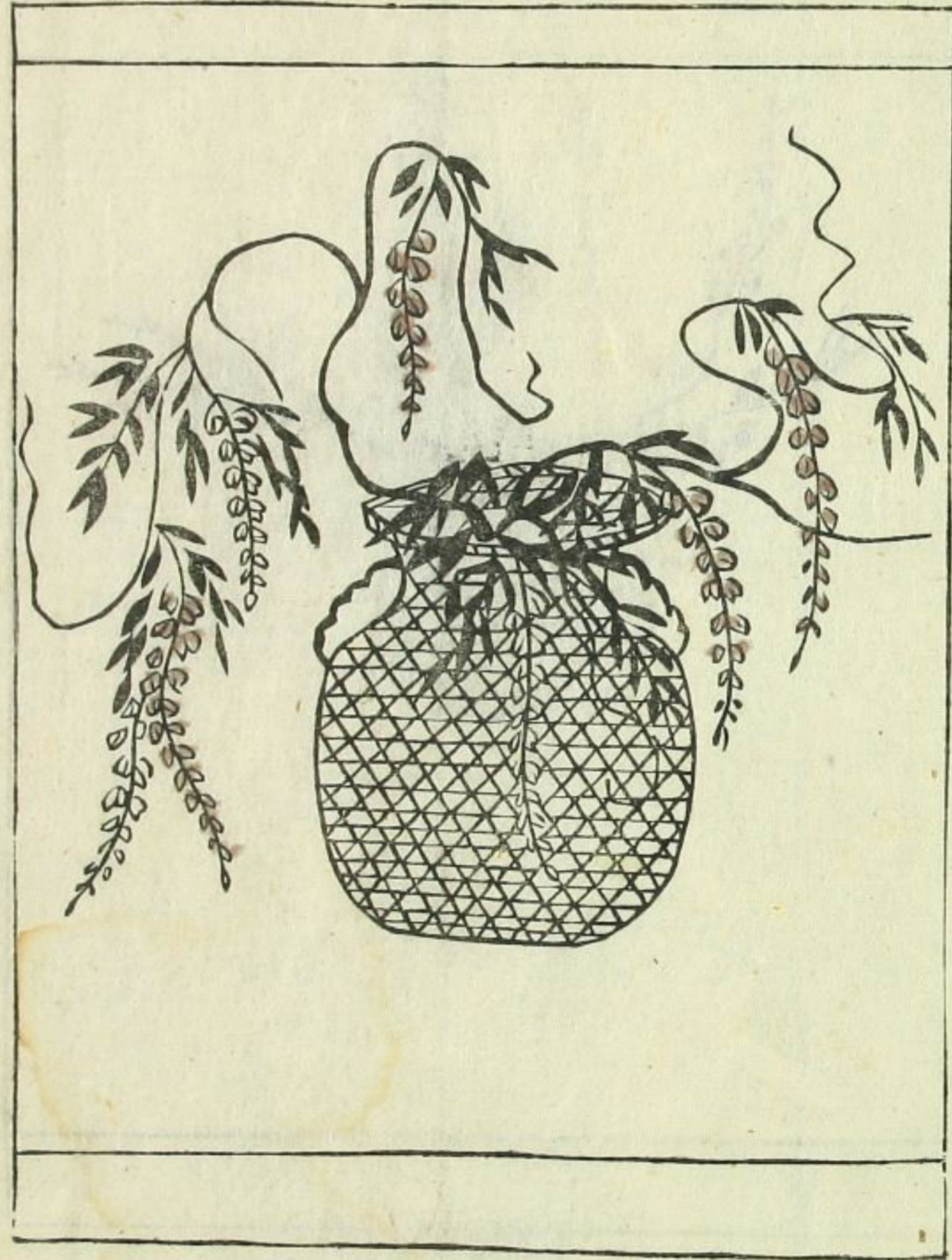
山

山



香炉圖





撚 岳



雪 履

上 中 下

三 輪 氏

三輪氏



東福寺仲直江文